



H24地域文化財専門家・研修



下田

■静岡県ヘリテージセンターSHECが発進

7月の本会理事会で「静岡県ヘリテージセンターSHEC」の設立が承認され、9月の理事会でセンター長以下役員が選出された。SHECの発進である。SHEC（呼称：シーク）とは、静岡県ヘリテージセンターの頭文字を並べた略称である。静岡県のS、ヘリテージHeritageのHE、センターCenterのCである。

■ヘリテージの意味

ヘリテージとは「遺産」を意味するが、地域の歴史や文化を物語る大切なもので、時代を超えて受け継いできたもの、と解することができる。これまで忘れがちだった地域に遺されている大切なものを見つめ直すことが今、求められている。歴史的建造物は、その地域その場所にしかないものであり、永く存在してきたものであるから、そのまち固有の貴重な資産であるといえる。

■歴史的建造物とは

私たちの周りにある建築物を歴史的文化的価値からとらえると、「一般建築物」「歴史的建造物」「指定文化財・登録文化財」の3つに分類できる。

このうち「指定文化財・登録文化財」は、文化財保護法に基づき国や県市町が指定・登録するものであり、法律によって守られているといえる。

指定や登録を受けないまでも、歴史的文化的に価値ある建造物が地域には数多く存在する。これらの「歴史的建造物」は長い間、使われ続けてきたもので、所有者・使用者にとって深い愛着があり、生活の記憶や思い出につながっている大切なものなのだという思いがある。その一方で、老朽化により、また地震等により倒壊するのではないかと、維持保全に対する経費の負担が重く、固定資産税や相続税などの負担も大きい。歴史的であるがゆえに現代の生活

様式に合った改修をしたいが、どのような方法があるかわからないという悩みもある。年々空き家や老朽化を理由に壊されていく現実がある。

■SHECがめざすもの

これらの歴史的建造物を維持保全し活用を図っていききたい。そのために所有者等から歴史的建造物に関する諸々の相談などを受ける窓口を東部・中部・西部ブロックに設けて、いつでも即時に対応できる連絡体制を整えた。

・連絡ネットワークによるチーム編成

本会では平成20年度から地域文化財専門家・研修を実施し、修了生が140名に達した。これら修了生を中心にSHECの構成員に登録されている（現在63名）。SHECの趣旨に賛同する本会会員であれば、いつでも構成員登録ができる。現地調査等が必要になれば、連絡網によりチーム編成して対応する。

・職人、行政等との連携

大工・左官・瓦等の職人の力は歴史的建造物の保全・活用になくてはならないものである。これらの職能団体と連絡体制を整えていく。また行政との連携も重要になる。文化財・建築・景観の担当課と常にコンタクトを図っている。

・非常時における対応

地震等の災害時においてもSHECの連絡・連携ネットワークが機能するよう準備している。地震時は応急危険度判定が最優先されるが、その後の被災歴史的建造物の調査をSHECが実施する。

・所有者と顔見知りの関係

この場合、歴史的建造物が危険度C（赤紙）と判定され、応急措置もなされないまま解体されることは避けたい。そのために平常時から所有者と顔見知りのいい関係を築いておきたい。

塩見 寛（静岡地区）SHECセンター長

